

第32号
広報委員会発行

関西大学通信

大阪府吹田市山手町3丁目
関西大学広報委員会



不況下にも順調な就職戦線

業種によって格差

来年も予断を許さず

昨年末の円高の影響が波及した今年の就職状況も業種別にはムラが、特に化学、鉄鋼、電気関係が引締りめられたところもある。とはいえ、全体としては現在のところ順調に進んでおり、年度末には例年の九七〇を達成する見込みである。ただし、来年の就職見通しは、国際収支の悪化による円高の進行のため、あるいは円高の再上昇の事態にいたる懸念があり、そのため就職が容易な業種とそうでない業種とに格差が生じている。就職戦線は予断を許さないのである。

自由応募で始まった今年の就職

すでに目玉から銀行、証券会社など、就職先が自由応募の形を取る方法が、勉学を阻害し、就職試験が開始された。学生自身決ってほしい傾向ではないと、身いくつかに会社を足を通じ、就職試験実施の照会をして自由応募

（四九・四〇）、大企業（同一一〇〇）以上は五五五（三三・三三）中企業（同一一〇〇）以上は三〇三（三三・四四）、小企業は一四四（〇・六六）、官公庁その他は七三三（三三・三三）、合計就職決定者二、二八二名、就職率六四・二二となっている。

産業別就職状況

法文経商社の各学科を合わせた文科系と、工学部とを分けて各上位一〇〇の順に産業別を述べよう。文科系では、①銀行・信託・信用金庫・組合（三三・四四）②百貨店・スーパー（三三・〇〇）③

建設業（二一・六六）④繊維工業（二一・六六）⑤繊維販売（八五五）⑥食品製造（七三三）⑦証券（六六六）⑧運輸・倉庫（五五五）⑨化学・薬品工業（五二二）⑩電気・電機（四五五）が上位一〇部門であるが、その他、新聞・出版・印刷（三三・六六）、金属製品（二二・二二）、電気機械製造（二二・二二）、総合商社（二二・二二）、機械

新理事会発足す

久井理事長が三選

十月一日開催の臨時評議員会において、任期満了に伴う役員の変更が行われ、次のような新役員が決定した。

理事長	久井 忠雄（前理事長）
学長・理事	廣瀬 三三（学 長）
理事	今井 康夫（前常務理事）
理事	植野 郁太（前理事・商学部長）
理事	根本 信雄（前理事・校友会会長）
同	金田 雅一（総務局長）
同	魚井 清（工学部教授）
同	山下 展典（前理事・公認会計士）
同	藤田 令允（国体役員）
同	吉田 健一（文学部教授）
同	吉田 健二（文学部教授）
同	吉田 三三（文学部教授）
同	戸根 泰雄（前理事・社会役員）
同	中石 清一（前常務理事・市会議員）
同	松村 隆満（社会役員）

新学部長決まる

十月一日付で、次のような人事異動が発令された。

法学部

部長 上林 良一教授（再任）
部長代理 田村 浩一教授（再任）
学生主任 堀本 有和教授（再任）
学生主任 堀本 有和教授（再任）

文学部

部長 藤本 豊教授（再任）
部長代理 三三 川正教授（再任）
学生主任 坂本 隆雄教授（再任）
学生主任 坂本 隆雄教授（再任）

経済学部

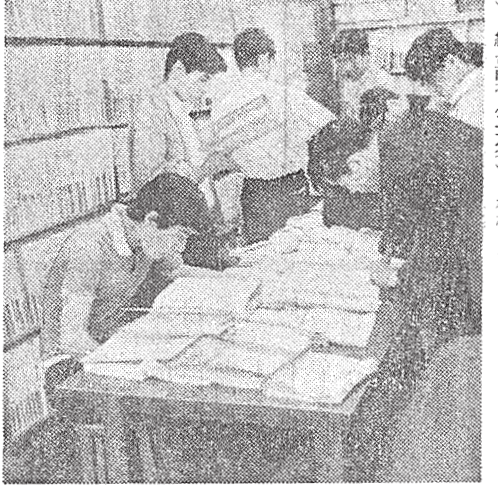
部長 市原 平教授（再任）
部長代理 重田 一教授（再任）
学生主任 小杉 毅教授（再任）
学生主任 小杉 毅教授（再任）

社会学部

部長 野崎 治男教授（再任）
部長代理 田宮 武教授（再任）
学生主任 岡田 至教授（再任）
学生主任 岡田 至教授（再任）

工学部

部長 新保 正樹教授（再任）
部長代理 宮谷 六教授（再任）
学生主任 中野 正吉教授（再任）
学生主任 中野 正吉教授（再任）



巨大企業へ進出

文科系・工学部を通じて、さすは建設ブームを反映して建設部門へ大量進出しているが、この傾向は「日本列島改造論」計画が拍車をかけ、来年も続くであろう。竹中、大林、大東、鉄高、住友など大手建設会社に多く進出している。文科系の金融関係も大和、富士、三井、神戸、協和、三井、三菱などの都市銀行に進出しているが、油田その他の地方銀行、各相互銀行、信用金庫が多量に採用している。百貨店・スーパーでは、松屋、高島屋、ジャスコ、ダイエー、西友、生協が多い。また伊藤、丸井、安宅産業、トメックスなど総合商社への進出がみられるが、都市銀行と並び総合商社へも女子学生の進出が目立っている。

来年度の戦略

以上のことから来年度の就職戦略について、就職関係の専門家は次のように見ている。①一月から自由応募の動きがはじまっている。大学就職課に自由応募の案内が来ているかどうかはわからないが、会社訪問に積極的であり、②本学は製造業に強いが、銀行、建設、保険、百貨店・スーパーへの進出も著しい。③女子学生は銀行、総合商社に就職する傾向が高い。④巨大企業への就職競争は年々上ってきているが、企業規模にこだわらず自分の活躍の場を求め、その門を叩く。⑤新聞社・マスコミ関係は競争率が高く、会社により年度で採用予定者の増減が大きいことを心得よう。

社会学部ゼミ説明会

社会学部では昭和四十八年度に開設されるゼミナールの説明会を次の要領で開くことになった。

十月二十五日第五限II各専攻コースの概要説明
十月二十六日第五限II教員各員による説明
十月二十七日第五限II教員各員による説明

来年度の戦略

以上のことから来年度の就職戦略について、就職関係の専門家は次のように見ている。①一月から自由応募の動きがはじまっている。大学就職課に自由応募の案内が来ているかどうかはわからないが、会社訪問に積極的であり、②本学は製造業に強いが、銀行、建設、保険、百貨店・スーパーへの進出も著しい。③女子学生は銀行、総合商社に就職する傾向が高い。④巨大企業への就職競争は年々上ってきているが、企業規模にこだわらず自分の活躍の場を求め、その門を叩く。⑤新聞社・マスコミ関係は競争率が高く、会社により年度で採用予定者の増減が大きいことを心得よう。

世界の大学と学生生活

飯野 春樹

キャンパス内に湖・滝

教授宅に十力月半居候



アメリカ東部のコーネル大学を
留学先に選んだのは、そこにかね
てから文通していたウォルフ教授
がおられたからである。数年前な
ら教授の前任校南カリフォルニア
大学を訪問していたエナラウ。
共通の関心は、近代経営学の始
祖とされるバーナード（Chester
I. Barnard, 1886—1961）
である。教授の論文をめぐり、
こちらから手紙を出したが、教授も
すでに私の名前を知っておられた
そうである。いつかバーナードに
出した手紙を見ておられたからで
ある。私も久しぶりに大学院時代
に書いた自分の手紙とある図書館
でなつかしく再会した。

ヨーロッパを回り、ニューヨーク
市経由でコーネル大学のあるイ
サカサ港に着いたのは、昨年の六

▲
コーネル大学のタワーと鐘楼一

月三日であった。そこで大学教授
らしない人物から握手され、自
己紹介を受けたが、それがアメリ
カ経實学会会長（この時は知らな
かった）のウォルフ教授であっ
た。学生時代にレスリングの選
手、その後もゴーチをされていた
というすべての型で、背丈も私と
同じくらいであった。すぐに教授
宅に案内され、結局そのま^す半^か
月半を^をて^て居候することになっ
てしまった。

あとで聞いた話では、日本の教
授な腰の曲った老人に遠くない
と思っていたのに、空港には一人
の日本人学生^生しか降りてこなけ
なかったのだ。お互い印象がす
想に反したので却って親しくなっ
たのであろう。

教授の手配で六月七日の卒業式
を見物したものの、それから九月
までは夏休み。ついつい大学と願

夕暮とチニアガラの滝を結ぶ緑の中間くらいにある小さい公園である。アイビー・リーグに属する名門コーネル大学のキャンパスは、カユエガ湖を見おろす丘の上にあり、キャンパス内にも湖のほとり、キャンパスの下を流れる急流の滝があって、アメリカでも最も美しい大学の二つといわれている。関西六大学も大都市にある大学としては緑が多くて美しいが、建物のなかに緑があるのにはない。コーネル大学はいくつかの例外を除いて二、三階建ての落着いた建物が散在し、まじに「緑のなかに建物があふ」という感じである。

その緑がやがて紅葉に変るが、この地方の丘全部の樹木が紅葉する様は壮大で本当に美しい。登下校の折には目眩になつかしい層州を思ひ浮かべ、かけまわるリスをみては日本に嫉した子供たちを想

部から、精を遣ひ、転部
なぐせられた経済学部で
学書でもよいといつた吉
を確立させてくれたのは
大助教役（当時）の経済
講義であった。この講義は
革命以後の均衡分析の学
展開を解説するもので
が、後年、大学院での助
演習に参加して溜った
それがそのまゝ現代の古
値と資本』の解説であ
りたつてゐた。

また、当時の大阪太
済院は岡田保馬先生に
講ぜられていた。けれど
生からは講義を通じて
むしろ、先生自身の多く

期間を除いて十二時まで図書館の
明るさが夜空に浮び上つていた
クロ・タワーの鐘の音もなつ

歴史的 経済 目的 融通 歴史的 限界
 拒否しながら、もう一度人生をやり直すことができればいい。告白の學者になつたいと告白し、(関西大学教育後援会「生の模範」) 私自身に忠告をするためには、回心の動機となつた『教義抄』を挙げておくが必須である。
 一、J. R. ヒックス「偏」と資本 I・II (安井・熊澤と資本店、一九五一年刊)
 原著は一九三九年に出版

冊
の
十

玉 六

を 概 分 析 を 展 開 し た も の と、風 約
教 する こ が できる が、こ の 中 に は
た た そ の よう な 風 約 と は 「『 鍾 嶺
と 資 本 』 は クールノー・ワ ル ラ
主 ス・バ レ ー ト・マ ー シ ャ ル の 古
典 的 労 作 と な る 地 位 を 歴 史 的 の
中 に 占 め る であ る」とい う 一 つ
の 著 書 出 版 の 数 年 後 に、言 明 さ れ た
P・A・サ ム エ ル ソ ン（『 経 済 学
分 析 の 基 礎 』）の「言 葉 と「世 紀
の 代 表 作」とい わ れ る であ る 一 つ
ケ イ ン ズ の『 一 般 理 論 』を 読 む」

展開を理論の自律的展開と見る
立場から、経済学の主流がワ
ラスト・バレートとヒックスの一
般均衡分析にあることを明らか
にしようとする（第一章、第九
章）名目である。

一二に自律的展開というの
は、理論の進行をも環境および
社会の変動の反映にすぎないと
する見方に対して「環境」ことに
社会の変動は……な問題を提
供する。経済学はそれによって

三、小野清一郎『歌興抄講
讀』(河出書房、一九五七年刊)
歌興抄についての紹介は不要
である。歌興抄は、中世の仏教
のから、親鸞の語録である。語録で
あるから、原文に載しなくてはな
らぬ。本文の味は判らない。けれ
も、私自身も最初から原文に
参したのではなく、右に掲げ
た解説書が最初の手引をつけてく
た。著者は東大名誉教授の刑
法学者であり、仏教文化研究会
の長としての造詣も深い。社会
は著者の手になる格調高い解説
書である。(経済学部教授)

語をかけたかの問題がつけてあ
るからである。

個人的な想い出に終始したが、二

随想

関太人』らしさ

池田敏雄

私が関西大学に籍をおいて一年六カ月、どうやら「関大人」らしさが身につけてきた。しかし、当初は随分なじみにくいこともあった。

大学にきて最初に奇異に感じたのは、正門をくぐるや否や、広広としたグラウンドが現われたことであつた。西ドイツの哥白な法学部である大学教授が関大を訪れたとき「ここは体育大学ですか」という質問を發したという話を耳にして、むべなるかなと思つた



『関大人』

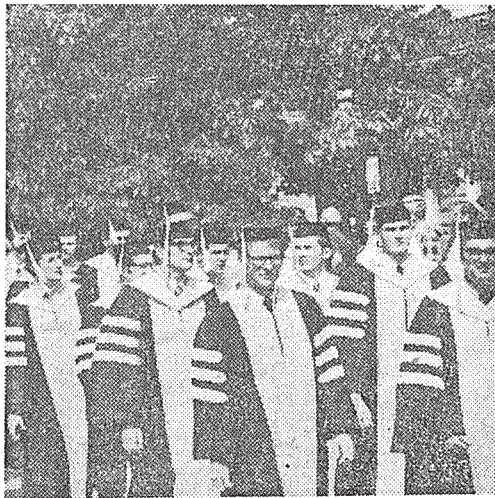
池田敏雄

完全に解消した。それどころか、野球であれ、剣道であれ、新聞に関心の健闘が報じられていると思わず「やった」と叫びたくなるほどである。

◇ ◇

(法学部専任講師)

一緒に日本食を作る



ウオルフ教授はナシヨナルの電であつた。私がベーパー・ブレイク炊飯器をこなし、こはんが好きトによつてブークでたべてい



元・森井 晴



ウォルフ教授

卒業生のパレード

時にはフロリダまで三男のリッチー（一四歳）と三人で旅行したこともあった。湖で集めたあさりでみそ汁を作ったら好評であった。

リッチーはさびしがりの外国人に
対して思いやりのある絶好の遊
び相手であった。

ではあるが、同居早々は電話ノイ
ローゼであった。帰国後、日本の
電話のベルはむしろ楽しくひびい
るが、料金の請求書はアメリカの

いたので恥しかったが、今、同じくらいきたないのを発見してすっかり安心した」と。飾り気のな

三冊の
本

玉木興乘

夫助教授(當時)の經濟學史の講義であつた。(この講義は境界を確立せられてゐたのは、その革命以後の均衡分析の學說史的展開を解説するものであつたが、後年、大学院での助教授の演習に参加して判つたことは、それがそのまゝ現代の古典『価値と資本』の解説であるといふことである)。

また、當時の大阪大学では經濟學論議會田部孫馬先生によつて講ぜられてゐた。けれども、先生から講義を通してよりは、むしろ、先生自身の多くの著書

否しながら、もう一度人生を
り直すことができれば仏教
者になりたい。と告白した
関西大学教育後援会・「先生
廣瀬」・私自身に忠実である
めには、回心の動機になった
「教員抄」を挙げておく必要が
ある。

一、J・R・ヒックス『価値
資本Ⅰ・Ⅱ』（安井・熊谷訳
波書店、一九五一年刊）

廣瀬は一九三九年に出版され

玉木 眞

新を展開したもの、と要約
（ここができるが、ここでは
よらな要約よりは）『価値
本』はターレー・ワルラ
パレート・マーシャルの古
の著作とならぬ地位を歴史の
占めるであらう」といふ
出版の数年後に言明された
A・サムエルソン（『経済
の基礎』）の言葉と「世紀
著作といわれるであらうケ
本の『一般理論』を説く」
供す

展開す
立身が
ラス人
般約論
にしと
章名
二

乗

三
二
一

(河) 歎異抄

理論の自律的展開と見る。経済学の本流がワルバロース↓ピクスの一分析にあることを明らかにする。(第一章・第九節までである。

に自律的展開というの論の進行をも環境および變動の反映にすぎないと方に対して「環境」といふ動は……ただ問題を提し、経済学はそれによって

た解説書で書かれた。著法学者として会長とし科学者の書がある。

書房、一九五七年刊）
 について、紹介は不要
 版異抄では、中世の仏教
 の語録である。語録で
 原文に親しまなければ
 の味は判らない。けれ
 自身も最初から原文に
 のではなく、右に掲げ
 が最初の手引をしてく
 言は東大名教授の刑
 あり、仏教文化研究會
 の造詣も深い。社会
 子になる格調高い解説
 (経済学部教授)

《編集後記》



関係書をホツとさせているが、
 今月号は、第一面に「このこ
 をとり上げてみた。
 学生諸君にとっては害の種で
 ある中間試験も終わり、一日よ
 り新しい学期が始まった。読書
 の秋、スポーツの秋である。心
 を新たにして、大いに学問に、
 スポーツにはげんでもらいた
 い。